

映画のこと手当り次第 (12) 淀川長治

いま考えると、あのころは町ぢゅうの連中がみんな映画ファンだったみたいである。

映画館の切符を買う窓口は昔の銀行のカウンターの白い大理石と同じで、それが銀貨銅貨の出し入れですりへって、ちょうどチャリンとおつりを貰うところが凹んでいるのであった。「そない押したらあきまへんでエー」ハッピのおっさんが押すな押すなの行列を整理しているそれでどの映画館も窓口の前に木のさくを作って行列が一系列になって切符を買う工夫をしていた。大正九年ごろ一九二〇年いまだ四十何年まえ。

そのころの正月は、私には新聞地と切り離しては考えられない正月のワクワク。キネマ倶楽部、錦座、朝日館の順で見るか、朝日館から、もう一つ松本座を加えて、錦座、キネマ倶楽部の順でみようか、それが楽しみであり、その誘惑は映画館の絵看板から自然と足の向きがきまるのもあった。

ロイドの「新婚旅行」チャップリンの「サンニイサイド」デブの「コック」チャップリンの「勇敢」メーベルの「海水浴」コンクリンの「幸運」ドグラスの「跳ね廻り」なんとシンプルな題名。それが客を呼ぶのは映画館の絵看板の競争。朝日館が有名な看板屋に自慢の絵看板を描かして、そのきれいなこと。錦座はチャップリンとデブとコンクリンとロイドがまるで一つの映画に競演しているような絵看板の派手さ。そこでキネマ倶楽部はぐ

うっとスマートにアメリカ製のポスターを利用する。それがまたこにくい味を出してD・W・グリフィスの監督「東への道」などは、その横文字の Way Down East の文字のスマートさ。それに主演のリリアン・ギッシュが氷河の上に倒れてその氷河がいましも漢布の方へ流れつつあるそのポスターがすごく大きくて西洋くさくてハイカラで。

「えー、パンにキャラメル、おせんにやつはし」これで朝日館のおせんが一番おいしく、キネマ倶楽部はドーナツ、錦座はアンパンがとも今で知るアイストキんが強くってすっぱくってそれがまた個性を持っていて、キネマ倶楽部へ行くとまづイの一番にドーナツを二個買ってから画面に見入ったものである。

そのころの正月は短篇六本くらい。これが一館のプログラムだから、これを三館四館とハシゴすると二十本からの短篇喜劇を一日に見ることになる。それでなおまだ見たかったのだからあきれたものだ。驚くわけもないが正月ともなると説明者（ベンシ君）もふざけて神戸べんになる。デブ君が眠っている。そのデブの寝顔が眠ったままニンマリ笑う。すると説明者が「よんべ福原に行つて、えらい、もててしもてん」。

このデブ君の一派にアル・セント・ジョンという共演者がいる。細長い男でデブ同様の人気者である。このアル・セント・ジョンはその喜劇の中でいかなる役名がつ

いていたかは知らないが、神戸ではこの俳優が出ると、セメントが来よった……と説明する。アル・セント・ジョンを略してセメント。これは神戸だけ（あるいは関西か？）のことで、後年東京に移ってこの名を口にしたところ、セメントでは誰にも通じなかった。

キューストン・コップと呼んだあの滑稽喜劇の何かと言うと警察署からむらがつてとびだす一連のお巡りたちこれが一台の車に十人くらい盛り上って走り出すのだが、たいがいその一人が車が走り出したとたん転んで落ちてしまう。「こぼれたッ」これが関西の説明で人気を受けた。「うわッ、こぼれてもた」。

悪漢のむれが一人の男を取りかこみ、その悪漢の親方が縞のシャツと黒いハンチング、そのヒゲヅラをその一人の男に近ずけておどしをかける。そのときは「こら、囁んだるか」。このカンだるか、がまた映画ファンの間で流行。

さらに進んで、殴り倒すのを「ちよつと可愛がったるか」。さらに進んで「こら、笑ろたるか」。

説明者は映画をさらに陽気にし、観客は無茶苦茶に押しこまれ自分の手か人の手かわからぬ大混乱の中で、画面に御ひいきスタアが現われると拍手のうえに口笛を吹きアンパンのから袋をサツとふくらませパツチーンと叩きつぶす。パー



ル・ホワイト連続大活劇「電光石化の侵入者」のその館内の賑やかさ。パール・ホワイトに扮するマージャリイがワーナ・オーランドに扮する怪支那人ウー・ハンにいましも殺ろされんとする。「あッ、危いッ」そんな瞬間、客席から声がとび出す。

「マージャリイを助けてチョージャリーいッ」なにがチョージャリーいなのか解らぬながら、そのとっさのチョージャリーい感覚。どっと笑う客席。すると説明者すかさず「危機一髪マージャリイの運命いかに？ 来週を見てチョージャリーいッ」

かくて新春の映画館はむせかえる陽気さで、まさに時のたつのも忘れたものである。朝かけ出して、全部見終って館外に出ると、もう夜の電気がアカアカと輝いて……あの正月の新聞地が忘れられない。

（映画評論家）

*写真は昭和8年ごろの新開地。本通りもずっと南に下った芝居小屋の並ぶあたり、道ゆく人も新開地らしく庶民的である。

● Captain Interview No.8



わ ち に こん
船 長 さ ん

ルーズベルト号(米客船)
R・G・ウイルソン船長

● きく人 玉 奥 章

六甲おろしが海面を上げしくそばだてて通り抜ける。
寒い。まったく寒い。この突堤にズラリと並んだ土産も
のやのおやしさんもおばさんも、ハナ水をすすりながら
の商売だ。真赤なネッカチーフで銀髪をくるんだ老婦人
が私の傍へきて日本女性の着物と羽織について話をしだ
した。羽織がどうもわからないらしくて用途をさかんに
聞くので苦しまぎれにコートだというと、大きくうなず

いて「アイシー、ベリーワンダフル」を繰り返して満
足そう。

アメリカン・プレジデント・ラインのルーズベルト号
はこの「こんにちわ船長さん」はじまって以来の豪華船
である。大きさは一八、九二二総トン。速力は巡航速度
一九ノット。最大二二ノット。乗客は一等船客で四五六
名。船内は実に暖房がよくきいていて快適だ。若い金

髪美人は背を大きくあけた粋なドレスで船内の散歩である。キャプテン所用のため午後六時からでないといんたビュウがでない。三時間ばかりのブランクができた。日曜日だからどうしようもないので、チーフオフィサーにたのんで船内の案内をしてもらう。カーキ色の半袖シャツ、長ズボンの軽装。愉快な彼はポケットから鍵をだしてどんだん気楽にみせてくれる。こども部屋、シヨッピンルーム、ロージと豪華船だけに至れりつくせりの設備だ。スタートルームにはいると部屋の三方はガラス張りで今一方の壁面には、モザイクの大きな壁画がかかっている。その前にピアノ、太鼓、ドラムなどの楽器があり専用のバンドマンが五名乗船して毎夜演奏をするのだ。五色のスポットライトをあびて太平洋の船旅をたのしむダンスパーティ。部屋の名前どおりエトランゼたちは、その名前と音楽とそしてダンスに酔うことだろう。今年のクリスマスはハワイの近くだからこの部屋の外にみえるブルーで泳げるでしょうとは私たちにっては嘘のような話。大晦日は食堂を飾りたてて大晩餐会とダンスパーティでゆく年、くる年を祝うそう。その大食堂にゆくと、静かな色彩でゴージャスな雰囲気である。副支配人から多彩なメニューをいただいたが私には画餅の類でありただ内容をみては生唾をのむだけだ。キャプテンテーブルからはじまり大小のテーブルがズラリと並び夕食の用意がすでに整っているかにみえた。タキシードに身を固めた紳士と艶やかによそあった淑女の群像。まったく想像するだけでも平和そのものである。午後六時、ボーイが軽やかなチャイムを鳴らして廊下をゆく。いわずと知れた食事の合図だ。この時には上陸していた船客が帰船してきて、タラップは時ならぬにぎわいぶりを呈する。

キャプテン・R・Gウィルソン (Capt. R. G. Wilson) は堂々たる体軀を濃紺の制服に包んでのお出迎えだった。が気さくなことと、底抜けに明るい人柄は好感がもてた。「よくいらっしやいました。船内もうみましたか? さ

て何からお話をしましょうかね? 年ですか? (首をすくめて小声で秘密だよといながら) 五十三才。一九二九年十一月から船に乗りはじめ一九四一年にキャプテンになりました。このルーズベルト号は二度目ですよ。よく船はかわりますね。船は大好きですが、船員になった動機ね、少しむづかしいね(じつと考えて) ウェル、私は人間が好きだし、旅行はもちろんのことその上船に乗っていると空気が新鮮ですよ」

ヨーロッパは過去の姿で、東洋は今日のものであり明日のものであるというウィルソン船長は日本が好きという。港ではサンフランシスコ、神戸、横浜、香港が気に入ららしい。神戸港はちょうど基地のようなもので往復とも立ち寄るため、何回きているか彼自身にもわからないそう。

「神戸港は、ダゲボート、パイロット、突堤すべていいね。それに美しい。サービスもいい。すべていいよ。私の家族? 妻と娘三人。二人はもう結婚して私は七人の孫がありとてもいいおじさんですよ(誇らしげに)」ニューオリエンタルホテルのスカイレストランで食べる神戸肉は最高と目をほそめ、カメラマンに私は写真が好きだがうまくとってほしいと注文をだす。また屋外活動家で休暇には夫人と魚つりにゆき時には四十二ポンドの鮭を釣りあげたり、狩猟には雪の日など馬に乗って十日間の旅にでて鹿や大熊を射止めるという。楽しい語りは尽きそうにないが、後二時間で出港だ。そろそろ忙しくなる時だ。静かな船内に人のゆききが漸くはげしくなってきた。ダンス音楽が流れてくる。アカアカと輝やく灯火はルーズベルト号を不夜城のようにその姿を闇の中から大きくうかびあがらせていた。星が冷たくまたたいている。

「若いシーメンにメッセージですか。うーん(しばし冥目すると鋭く) がんばって、よく働け/それだけですよ。じゃ、みなさん、またお逢いしましょう。グッドバイ」

(提供神戸銀行)

神戸の集いから



三菱重工神戸造船所で、ふう愛わりな「エッソ・バルセロナ」号の命名式

新しい造船方法、二分割建造方法で誕生した「エッソ・バルセロナ」号は、既に、5月に船の後の部分を進水、8月に前半部分を進水しており、新造成ったもののいまさら「進水式」もおかしい訳、頭をひねった三菱重工は、ふう愛わりな「命名式」を考えだした。

「命名式」はさる11月30日午前10時から同社神戸造船所第4ドックで行なわれたが、船名はスペイン映画でお馴染のバルセロナだといろので、バルセロナ知事アントニオ・イバンス・フレヤ氏を特別に招待。進水式の次第とはほとんど変わらない「命名式」を行なった。浅野績同社社長、船主代表ロジャー・両氏が玉串を奉奠、式典を終わって、パナマ国歌（船籍国）アメリカ国歌（船主国）スペイン国歌（船名国）日本国歌（造船国）と4カ国の国歌を吹奏、ロジャー夫人が命名の言葉と船首に飾られた、くす玉のテープを切った。

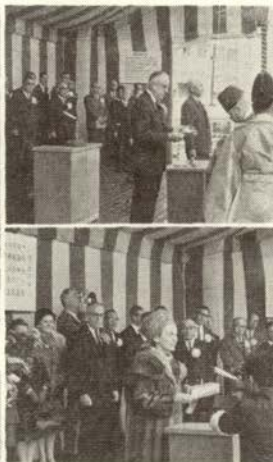
「生きるという」と、原口ちから

出版記念会のゆかいな集い

「天秤」同人の原口ちから氏の著書「生きる」ということ―ある町医者の来歴―の出版記念会が、去る11月22日（日）午後1時から午後5時まで、元町2丁目、安田信託銀行神戸支店2階の集會場で開かれた。

出版記念会のプランナーは「天秤同人」の足立巻一（詩人）・亜騎保（詩人）「蜘蛛」の君本昌久（詩人）の各氏に医師会の同僚。原口ちから氏の日頃の精進が実ったと喜ぶ同僚のお医者さんや文化関係者で大へん賑やかな集いになった。

とくに出席者のお祝いの言葉にいろんな話飛び出した。一番の傑作は春木一夫氏（作家）で原口ちから氏夫妻の仲人の弁、出席者一同腹をかかえた。かくし芸大会は珍芸揃いついで会場をわかれたが、杜山悠氏（作家）の歌と中西勝氏（画家）のカンキリンの歌西元康氏（医師）津高和一氏（画家）の踊りはとくに評判がよかった。神妙に祝詞をうけていた原口ちから氏も遂にたまりかねて、「王将」を歌って激励に応えた。



「進水式」のかわりに行なわれた
 ようがわりな「命名式」
 一 三菱重工・神戸造船所にて
 右「エッソ・バルセロナ」号
 上 玉串を捧げる浅野氏とロジャー
 一氏
 下 命名の言葉を贈るロジャー
 氏夫人
 原口ちから氏の愉快な出版記念会
 風景
 上 祝福を受ける原口氏夫妻
 下 医師の同僚や津高氏など



家具・室内装飾・工芸品



頌 春

永田良介商店

大丸前 TEL { ③⑨ 3 7 3 7
3 7 3 9

靴の専門店 クロス

トアロード店に舶来品コーナーができました

迎春



神戸 トア・ロード TEL ③③ 0998
代表 ③⑨ 1781
大阪 阪神百貨店 TEL (361) 1201



MODE of KOBE

*春を呼ぶ船を訪ねて
アンサンブルの
カクテルコートとドレス

福 富 芳 美

神戸ドレスメーカー女学院院長
大丸顧問デザイナー

神戸の新春は、港にやどる世界の船々が、1965年
午前0時いっせいに「おめでとう」と汽笛の序曲を奏で
るとゆるやかに幕があがります。そして観光船の訪れは
港を活気づけ、海から神戸の春がやってくるのです。
今月はA・P・LのP・ルーズベルト号を訪ねて、神戸
っ子のモードをご紹介します。

新春は、お友達同志のおよばれや、パーティ、結婚式



などのチャンスが大変多いことと思いますが、そんな時正式に着られるアンサンブルのカクテルコートとドレスがあると非常に重宝なものです。きものでいえば訪問着にあたります。

布地はシルクか光沢ある化繊類の厚手のものを選ばれると華やかな感じがです。コートのシルエットは、流行の細っそりしたコートでシャープな女らしさをねらい、ドレスは中途半ばな袖丈にしないで、思いきり短い袖か、袖なしにすれば若々しく、少し長めの手袋をはくとぐつとよそいきのムードが出せます。共布のコートとドレスにすればよいに上品で、豪華な感じになるでしょう。

★写真のアンサンブルのコートとドレスの説明

上品なサモンピンクの厚手シルク地を使いました。コートはウエストをダークツでシェーブして、細っそりしたシルエットにまとめ、袴はステンカラーの若々しい感じ、4ツの可愛いボタンがアクセントになっています。

ドレスは身頃をバイヤス裁ちにして、柔らかなドレープをつけ、丸いヨークがそのまま袖になるエレガントなデザインです。このドレスの長は、どの線もカクテルにふさわしい、シンプルだけれども優雅な女らしさをにじませていることでしょう。また、共布で作られたドレスとコートの組合わせが、さらに豪華さをそえています。

(モデルは福富草子さんです)





●1月の髪

早春の風

西野 明

早春の風はまだ冷たい。けれどどこか甘い夢と希望がはじけるように漂っています。

1月の髪は、お正月や新年会の装いのために、軽ろやかな小鳥のはばたく羽根のようにモダンな、アップの髪をデザインしました。

若いお嬢さんからミセスにも向く髪で、ショートのかたはヘヤーピースでもアレンジできます。アクセサリーは、若い人は流行のリボンで可愛らしく。30代のかたは

ブローチや造花のアクセサリーが華やかです。パーティだけなら、カトレアの白、ピンク、ふじ色などの生花で飾れば、優雅な、匂うような髪に仕上がります。

髪を長持ちさせたいかたは、髪の毛の流れにそってピンで押さえます。形をととのえる時は、手で髪をつまみ、軽く櫛をつかってなでつけます。ひたいの美しいかたはフロントをぐっとひきつめても魅力的です（美容室あきら、ヘヤー・デザイナー）

賀 正

本年もどうぞよろしく



写真は2階ショールームの一角です



元町2丁目
☎4707~8

A HAPPY NEW YEAR



婦 人 帽 子

マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL ☎6711-3 TEL (535) 5041



PM ダイヤモンド指環



PM ブルーサファイヤ指環

頌 春

ダイヤモンドは5年先に現在の市場価格の3倍になる見通しであるとベルギーダイヤモンド原石業界誌が報じています。これによると年2割5分の利益が約束されることになります。

Tajima
宝飾店 タジマ

元町2・TEL 33 0387・2552



PM スタールビー指環



PM エメラルド指環



PM ネコノパサ指環



頌 春

ハンドバック

専門の店

シラサ

元町2 ㊦ 0813

Akira Beauty Shop



美容室

あきら

西野 明

電話予約制

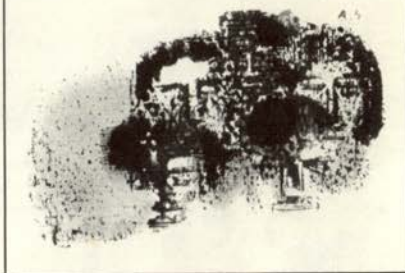
三宮本通り TEL ㊦4461・6458

アフリカに音楽の勉強に行きたい貧乏な学生、旅費づくりに御協力下さいと、路上にチョークで英・仏・独三ヶ国語で口上を書き、クラリネットをふいてカンパを求めるビエールは今年二十才。未開地のリズムに魅せられた青年である。だが困ったことに、大切な傍役のコブラが好きにならない彼は、一人舞台が型にならないことを知ると、ノミの市で仕入れてきたゴム製のコブラに細いテグス糸を繋ぎ、笛の先に結びつけてコブラ氏にダンスを強いる頭のいい方法を考えた。こんなユーモアが、パリジャンには気に入られたのか、収益の方は間もなく予定額に達するとうれしそうに言う。その彼の恋人、ジゼルは美術学生で、やはり強い太陽の国アフリカに製作モチーフを探しに行きたいのだ。が、彼女の両親が賛成してくれないので、サンジェルマンの大通りで、針金と金属板細工のアクセサリーを、世界にたった一つしかない貴女だけのアクセサリーのキャッチフレーズをもとに路上に並べ、せつせと貯金を続けていく。涼しい眼をもったパリッ子で、ビエールと同じ年だそう。そんな彼等に暖かい支援をおくっている仲間たちを成人の日に困んで、お伝えしよう。

さて、彼等の行動圏は、何といてもカルチェ・ラタンとよばれるセーヌ左岸といえる。ソルボンヌ大を始め大家族を擁する学校がこの地区にあるためか、このあたりの平均年齢は、二十才に接近しているといえよう。サンミッシェルの大通りやパンテオン広場では、本を小脇にかかえて足早に教室に急ぐ学生や、趣味のよいコートに流行のブーツでモードの研究も怠らない女子学生、食事と登校を同時に行なっている連中や、若い人波ですばらしい活気をみせてくれる。アメリカ大陸からやって来た彼、南の島で育った彼女、そして東洋から飛んできた日本人と、ざっと見渡しても十指に余る人種が歩いている。

ところで、よく学ぶ代りに、よく遊ぶと云われる彼等にとっても、気になるのは、卒業後の職場のことだが、フランスでも近頃は技術関係の職場が優遇されているのは日本同様だ。しかし、御当人たちに、その言を聞く

★パリ通信⑤
パリの私たち
佐藤昭年



と、日本に比べて、まず生活を第一義とするというのが幸福な家庭をもちたいのが希みという学生が非常に多い。例えばこれは、オリンピックに参加したフランス選手的生活ぶりにも、うかがうことができたように、ナニがナンデモカネバナラヌ的な要素とは違ったものと解釈すべきだろう。

余暇の過ごし方はどうか。野球もマージャンもパチンコも不幸にして知らない彼等だが、スポーツで盛んなのはサッカー、サイクリングで、その他ドライブを楽しんだり、街のカフェでだべったり、ジューク・ボックスでツイストに興じたりする。このでも、クラシックの音楽を愛好する人たちがも少なくない。

映画、音楽会、オペラ観賞や、ルーヴル美術館や、街のあちこちにある画廊では絶えず一流芸術家の作品に出会うことが可能だし、英語講座に通ったり、多くの機会をもつけれども、案外人気のあるのはダンス・パーティーである。こゝ暫く、大舞踏会と称するダンス・パーティーがたて続けに催されているが日本同様学生パーティーなどは、入場するだけで踊ることなど、余程、P・R下手で運のよくない主催者の会でない限り不可能に近い。そこで必要条件から、アフリカ

からやってきた盆踊りのようなリズム・ダンスが歓迎されるわけだが、過日行なわれたパーティーで突如としてオリンピック音頭がかゝり、会場に居合せた日本人学生が次々発見されて、我流即製の振付けで、日本流ダンスを要求する外国人学生の希望に応え冷汗をかいたということも聞いた。

若い世代の日本熱もオリンピックが拍車をかけて一層上ったが、日本理解の資料が週刊誌、新聞によるものも多く、そのため断片的な知識になり、ハラキリと日本人をすぐ結びつけたリ、イメージがどうもはつきりしないようだ。正確な日本紹介をもつと強力に推進しなくてはと、素朴な願いをもつ今日此頃だ。理解しようとする待ちかまえている世代がいるのだから、あとはP・R次第といえるのだが。

ながい夜が終り
いま
薄明のなかに
うかびでる
海と船と町と
こうして
きょうも夜明けに
ふたたび
希望がよみがえる



舶来服飾

マルエス

元町通3丁目 ㊶6541

舶来雑貨とステッキの店

ステッキ オカダ

三宮生田筋 ㊶1198

あらゆる電気製品の店

元町電機

元町通6丁目 ㊶3701~5

紳士シャツ

大和屋のシャツ

三宮センター街 ㊶6956



紳士洋品の店

サ カ エ

元町通 2 丁目 ㊦7885

玩 具

カ メ ヤ

元町通 3 丁目 ㊦0090
三宮センター街 ㊦4969

男子洋品の店

フ ナ キ ヤ

元町通 3 丁目 ㊦3617

FASHION ACCESSORY

AKIRA

三宮センター街 ㊦4895

春装

元旦

美しさを創る

アスター・ニューヨーク

トア・ロード ③ 1818

ベージュワニ皮ハンドバッグ
(イタリア)
¥ 200,000.—

ジャージ・プリント
(イギリス)
スーツ分 ¥14,000.—

スウェード・ツーピース
(オーストリア)
¥60,000.—

ベルベットプリント
(フランス)
4.0m ¥32,000.—

ワイン皮ハンドバッグ
(イタリア)
¥65,000.—



Variety of Life No. 11

● 暮らしのバラエティ

神戸の婦人服

ハンガリーのピンクッション

¥ 290円〜から

ここ神戸はミナト街。

日本国中でどこよりも早く文明開化の波が押し寄せ、人々もいち早くそれに馴染んでいった街でもあります。

当時の神戸の女性にとって、目新しい「洋服」を着ることが即ちハイカラ趣味であり、あちら風の生活することに大きな憧れをもったものです。日本中で一番早く洋服を取り入れたと考えられる神戸の街に、30数年の店歴をもつトア・ロードの舶来婦人服飾専門の店「エスター・ニュートン」こそ、洋服の歴史と共に歩んできた数少ない店といえるでしょう。

そこで今月は「エスター・ニュートン」に店主のエスター・フク・ニュートン夫人をお訪ねし、お話を伺いました。

＊スタンプの着物、なぜ毎日着ないのか

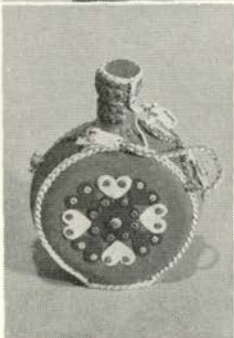
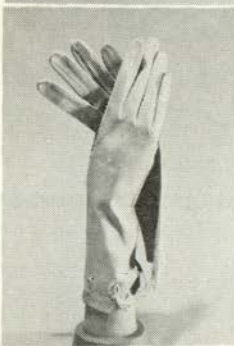
「わたしですが、当時居留地で服地の輸入商をやっておりました主人に相談して、今の店を出してもらったのは昭和の初め、そう今から33年以上も前のことでした。場所も現在の位置より山手で、東京銀行のお隣りでした。子供もなく、体もあり丈夫でなかったわたくしには婦人服飾の店「エスター・ニュートン」は生活の張り合いといえました。舶来生地については、主人の仕事からいろいろ学び、知識は豊富でしたけど、商売の方は全くはじめてで素人だったわけです。

亡くなった夫は生粋のロンドンっ子で、日本人の妻であるわたくしにも、和服より洋服の方を着せたがったものです。でも何故か日本の礼装である紋付がたいへん気に入っていた風で『スタンプ（紋付の紋がスタンプに見えたらしいのです）のきもの、どうして毎日着ないのか？』なんてげんそうに問うのには、さすがに英国人らしいユーモアだと感心したり困ったりしました。また夫も他の外国人の方々と同様に、日本の女性が、年に一度か二度しか用いないような美しい晴れ着などを大事そうにタンスの奥深くしまっておくという風習を理解できず実用的でないのにと不思議がっておりました。ほんと

うにわたくしもダンスの肥にする着物を沢山作るよりも活動的で実用本位の洋服の方が好きでしたので、早くから愛用していました。」

*ダンス大流行の華やかなりし頃

「昭和の初めといえば、のどかで平和な良い時代でした。ダンスが日本中を風靡していました、神戸でもそれはそれは盛んでした。いわゆる上流社会の社交のひとつとして、医師、弁護士、グルーブという風に、各グルーブ毎にオリエンタルホテルや宝塚ホテルでしょつ中、パーティを開いたものでした。また外国船が入るとわたくし達はKR&AC（外人クラブ）へ船員達を招き、返礼としてわたくし達が船へ招待されるということもよくあり



(写真上) 踊るスペイン人形 ¥2,500
(写真中) フランス製エラスチ ¥2,600
(写真下) ユーゴスラビアのフック長手袋 ¥2,000より

謝しています。近頃は国産品も研究され、品数も豊富になり品質も良くなったとは申しますが、ウールなどはやはり本場の英国、フランスなどのもので作ってご愛用になられますとその違いがお分りになると思います。お客様方のお話しでは少々高くついても舶来生地でニュートン仕立てのものはいくら着ても着くずれしない、とか、飽きがこないとかお賞めいただいております。たしかにうちの店の縫製技術は独得でもあり誇りに思っておりますが、洋服生活をたのしむのに二通りあることは確かです。あまり上質のものでなくても数多く作ろうという行き方と、最上等のものを数少く大切に長持ちさせるという行き方です。どちらを好まれるかはみなさんのご趣味

によりますが。」

*流行の先端を歩き、しかも流行に左右されない

「エスター・ニュートンでは、常に各国の流行のモードはいち早く取り入れはいたしますが、どちらかといえば、おとなしいデザインのものをすすめております。だから今年作ったらもう来年は袖をとすのが嫌だということもなく、お客様も感心される位、長く着ていただけるのかと思います。少々太っても、やせても大丈夫、身に合っているというのも定評があります。洋服の歴史と共に学んできたニュートンは、これからはニュートンを愛して下さるお客様と共に進んでゆくのだと思います。世界はせまくなりしました。今日、エスター・ニュートンの服を召して、明日、パリの街を歩かれる時代です。常に世界のモードの一步前を歩むべく今後とも努力してセンスを養って行くつもりです。」

*母娘二代にわたるお得意様

「その頃まだ20代で、花嫁衣裳のお支度をさせていただいた方のお嬢さんが、もうそのお年になられて、母娘そろって当店で花嫁衣裳やその他の服を作らせていただいたという事は珍らしいことではないのです。そういった30年以上、店はじまって以来の長いお客さまの信頼によって「エスター・ニュートン」は現在あるのだと感



あけまして
おめでとう
ございます
'65



パン入庫 4 2 7

三宮センター街 TEL 5481-3

芦屋店・サンドウィッチパーラー
そごう店・須磨店・大阪店



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前 3900
婦人服飾・大丸前 1505
センター街 4624
西路わぎとぎ 1221

A HAPPY
NEW YEAR



アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店 TEL 332203



きものと細貨

東京 神戸

銀座店	新橋店	東店	西店
TEL.	TEL.	TEL.	TEL.
(572)	(571)	(33)	(33)
5151	0807	0862	0836
小松ストア地階			(代)



おんざら庵